スタートアップを支援

作業アシストロボ実用化

@多摩

菊池製作所、工場を提供

開発や販路開拓

試作品製造の菊池製作所はスタートアップ企業によるアシストスーツなどの作業支援装置の実用化を後押しする。自社工場を試作や量産の場として提供し開発から販路開拓まで一貫して支える。国内の大学と連携して作業支援装置を開発してきたノウハウを生かす。本社のある東京都八王子市など東京多摩地域に同分野のスタートアップを呼び込むことも狙う。

支援の対象は医療や介護・福祉、工場などの便やドローン（小型無人機）を開発するスタートアップ。菊池製作所は物を持ち上げる動作を支援する「マッスルスーツ」や量産型ドローンを製造しており、蓄積した製造技術や販売ノウハウを支援に生かす。

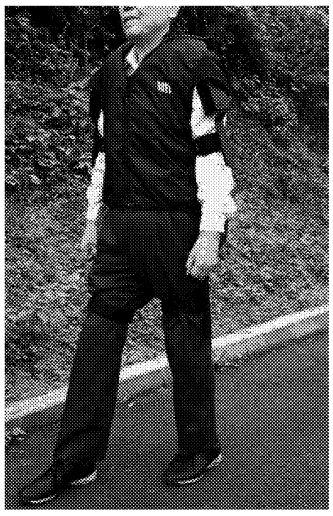
開発、市場調査、試作の過程では、自社工場でマシニングセンターや3Dプリンターなどの加工装置を貸し出す。同社の従業員がどのような装置に需要があるのか助言もする。試作終了後に必要な実証実験では、自社製品の試験も行ってきた医療機関や介護施設などを紹介する。資金繰りの必要に応じ、スタートアップに出資も行う。

スタートアップは生産設備を持たないことが多いため初期の量産を請け負う。部材調達や資金提供もする。販路開拓では、全国の中小企業が製造している作業支援装置を販売する菊池製作所のサイト「ワールドロボテック」で製品を無料で紹介する。

ワールドロボテックに掲載した製品売上高の15～20%程度の販売手数料を得る。出資したスタートアップの株式売却益も得る。同社の2018年4月期のロボット・装置関連事業の売上高は4億2200万円。スタートアップ支援事業のほかマッスルスーツの大口受注獲得などで、19年4月期は2倍の8億6100万円をめざす。

同社は大学と連携した製品開発の実績が多い。マッスルスーツを東京理科大学と、歩行支援ロボットを東京工業大学と開発し、子会社を通じて販売したり実用化をめざしたりしている。共同開発では試作の場の提供、試作品の改良などで協力することが多く、スタートアップ支援にも同手法を生かす。

試作や量産に同社の設備も利用できるため、スタートアップが周辺に拠点を構えることなども想定している。歩行支援ロボットを多摩地域の登山用に貸し出して知名度の向上も検討しており「多摩地域の産業の核の一つに育てたい」（菊池功社長）考えだ。



菊池製作所が東工大と連携し、子会社を通じて実用化を目指す歩行支援ロボット（写真上）。本社工場の設備を試作や量産などで提供する（同下、八王子市の本社第一工場）

掲載日 2018年08月09日 日本経済新聞 地方経済面 東京

(C)日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。